

三尾重定編輯

新編小學讀本第二

178  
4  
93

館藏書目大			
三			二
九册	五號	三架	六函

K120,8  
68a  
2

三尾重定編

新編小學讀本第二

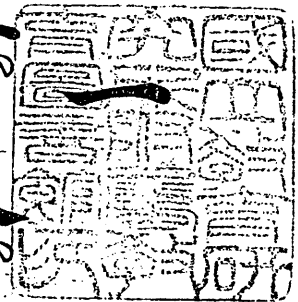
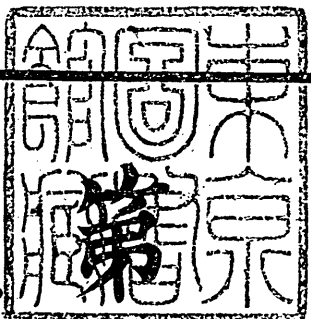
東京

教育書院藏

明治二十年二月四日内務省交付の

# 新編 小學讀本第二

三尾重定 編



玉人賢。

玉みかざれば ひより

新編讀本

第二

教育書院

なし人 まふはざれば  
ち急いでむ つとめまあび  
て賢きもの と なれ

第二

氣成得

むづかきとて 氣をお  
とすか はぢめバ かなら  
ず成し得べし

第三

方天地

人のたちたる  
 かいらの方  
 を 天といひ  
 あしむ方を  
 地といふ



第四

高山谷

地の高きとあろを 山と  
 いひ 山と 山との あひ  
 だを 谷といふ

第五

狐走鹿。

けものハのにえやまに  
えあり 狐 たぬきハの  
を走る さる 鹿あどき

山ふ阿そぶ

第六

水所海。

水ふかく ひろく せりて  
あまたのふねの ゆき

する所を海といふ

第七

陸、川、流、池、

水の陸をたぐるゝと  
ころを川といひ  
水のた

まりて流きぬと  
池といへり

第八

東、西、南、北、

ひのいづるかたを東とい

ひ 日のいる方を  
 西といふ あさ日にむる  
 ひて みぎの方を  
 南といひ ひだりの方を  
 北といふ





第九

春。夏。秋。冬。

春は あたゝかにしては  
かさき 夏は 阿つくして  
みづるわき 秋は すゞし

くちて つきをみ 冬はさ  
むくして ゆきふる

第十

朝。夕。夜。

ひのいづるころを 朝とい

ひ 日のいるあるを 夕と  
ひひ ひのいりたるのちを  
夜といふ

第十一

時、年、月、數

一日一夜ハ 廿四時ふして  
一年ハ 十二月 するの日  
數ハ 三百六十五日あり

第十二

花、梅、桃、牡丹

はるさく花ハ なふくぞ

梅 けむき 桃 きくら

山吹 かいたう 牡丹のた

ぐひ 以強くあり

第十三

走。倒。心。歩。

みちを走れば つまはき

倒きて かへりて人にお

くる、木石あり 心志づら

小 歩むべし

# 第十四

途、休、先、行。

途、ノ休、ノ先、ノ行、  
途、ノ休、ノ先、ノ行、  
途、ノ休、ノ先、ノ行、  
途、ノ休、ノ先、ノ行、

先へ行く

べー 心ふゆ



だんまゐるこけ

あゝれ

# 第十五

游、鳥、鴈、鴨、岸。

水、ノ游、ノふ、ノハ、  
水、ノ游、ノふ、ノハ、  
水、ノ游、ノふ、ノハ、  
水、ノ游、ノふ、ノハ、



もあり 鴨を阿里 志らさ  
ぎい 岸ふたち 又 をし  
ど里も 二つあり

第十六

遊。清。舟。漕。

あつの日の 遊びよハ 清  
き川べに 舟をうかづて  
水のまふく 漕ぎめぐるぞ  
たのしみある

第十七

形、桶、圓、箱、

水いまとより 形なし 桶

にいるれば 圓くあり 箱

ふ以るまば 方となる

第十八

亦、善、惡、交、

人も亦 水のおとく よま

ひとふまどはまば 善き人

となり 阿しき人ふ交れば

悪き人とある

第十九

蟲、何、松、鈴、其、

あきなく蟲ハ何ぞぞ松

むし鈴むしきまぐに

くつおむしかど以てく小

て其こゑきまぐなり

第二十

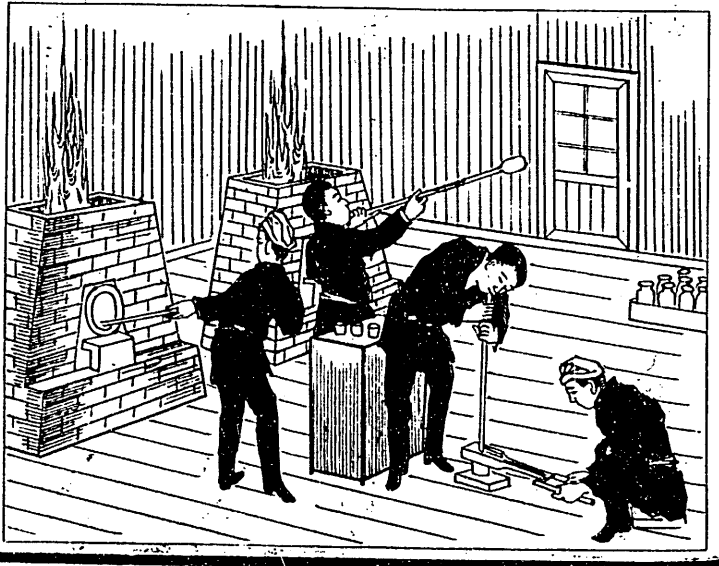
食物、穀、肉、

類、烹、漬、

人の食物ハ穀るゐ肉る

おやさいの類ふして烹  
てくらひ志ほ漬とし又  
おぼふてえ食ふものあり  
第二十一  
早、起、務、励、仕事。

あさひ早く  
起てわが務  
めを励むべし  
朝おこたき  
をるれ日の





仕事 はかどらず

第二十二

一年。始。殊。勉強。

朝ハ一日のはじめ 一日  
ハ一月のはじめ 一月ハ

一年の始なれば 阿さい  
殊さら 勉強をべー

第二十三

事。知。問。恥。

あらざる事ハ 人に問へ

とふこやい 恥ふあらす  
知らですぐるハ 悔ことに  
はぢなり

新編 小學讀本 第二 畢

版權免許

明治十九年  
一月廿五日

再版御届

同  
五月廿八日

校正三版御届

明治二十年  
一月十七日

定價金五錢五厘

編輯者

愛知縣士族  
三尾重定

出版者

東京府士族  
神田區五軒町十九番地  
岩田富美

出版并  
發賣人

東京府士族  
吉澤富太郎  
本所區松井町三町早番地

